

光市記者発表資料

令和2年12月18日

件名

2020年光市10大ニュースの選定について

標記の件につきまして、市政運営の観点から、重要性や市民生活への密着性などを踏まえて選定しました。

記

2020年光市10大ニュース（日付順）

- 新型コロナウイルス感染症による影響
- 市ホームページリニューアルとInstagramを開設
- 「里の厨」レジ通過者200万人を突破
- 小中一貫教育の取組みを開始
- まちの課題を克服するための拠点の整備計画を策定
- 島田川工業用水道への給水開始
- 東京大学の大漁旗プロジェクトに参画
- 光市長選挙及び光市議会議員選挙
- 公共施設のLED化を推進
- 児童・生徒に1人1台のパソコン端末を配備

※各ニュースの詳細については、別紙の説明資料を参照してください。

問合せ

担当課・係 広報・シティプロモーション推進室
 広報・シティプロモーション推進係
担当者 梅永 理紗（TEL0833-72-1409）

●新型コロナウイルス感染症による影響

新型コロナウイルスにより、施設の利用停止や小・中学校の臨時休業、店舗の時短営業など大きな影響を受けました。また、市民や団体から多くの寄附や寄贈をいただき、支援の「わ」を広げました。

●市ホームページリニューアルとInstagramを開設 3月2日、6月30日

3月に市ホームページをリニューアルするとともに、6月には市公式Instagramを開設し、市政情報はもとより、本市の「人」や「自然」などの魅力を発信しました。

●「里の厨」レジ通過者 200万人を突破 3月28日

平成23年にオープンして以降のレジ通過者が、3月28日(土)に200万人を突破しました。これからも農業振興の拠点として、地産地消の推進と市内製品の魅力発信に取り組めます。

●小中一貫教育の取組みを開始 4月1日

小・中学校が同じ教育目標のもと「15歳の子ども像」を共有し、9年間の系統性を整理したカリキュラムを実施するなど、つながりを重視した教育を目指します。

●まちの課題を克服するための拠点の整備計画を策定 6月30日、9月23日

6月に防災指令拠点整備基本計画を、9月に光駅拠点整備基本計画を策定しました。市民の安全・安心を確保しながら、利便性とにぎわいを生み出すまちづくりを進めていきます。

●島田川工業用水道への給水開始 7月22日

市が保有する中山川ダム貯留権の分割水利権を有効活用した自家用工業用水道事業により、7月から周南地域の産業活性化に向けた工業用水の供給を開始しました。

●東京大学の大漁旗プロジェクトに参画 10月16日

東京大学の「日本各地を繋ぐ大漁旗プロジェクト」に参画し、市民の皆さんや、市内企業・団体などによる「SDGsの目標達成に向けた取組み」をちりばめた大漁旗をデザインし、製作されました。

●光市長選挙及び光市議会議員選挙 10月25日

10月25日(日)に光市長選挙及び光市議会議員選挙の投開票が行われ、市川市長が4回目の当選を果たしました。あわせて、7名の新人候補が光市議会議員に当選しま

した。

●公共施設のLED化を推進 12月4日

省エネによる光熱費の削減と温室効果ガス排出量の低減を図るため、サン・アビリティーズ光や勤労者体育センター、スポーツ館の照明をLED照明に変更しました。なお、小・中学校体育館についても順次改修されます。

●児童・生徒に1人1台のパソコン端末を配備 12月25日

令和3年1月からの活用に向け、児童・生徒1人1台のパソコン端末や各教室の大型テレビなど、小・中学校ICT環境を整備しました。端末はLTEモデルで、臨時休業時は、自宅でも活用できます。